

中西 淳朗

消 息

合同地方会 平成十二年九月二十三・二十四日(土・日)
 岡山県新見市(会長 石田純郎)

横浜市大にシモンズ碑建つ

大滝 紀雄

日本医史学会広島支部・関西支部・日本医史学会(本部)・
 新見公立短期大学共催、京都医学史研究会・日本医史学会新
 潟支部共催(新見公立短期大学創設二〇周年記念)

一般講演(二十三日)

- | | |
|---------------------------|-------|
| 一、岡山県八束村時代の湯慎ます | 進 彩永 |
| 一、仲田家の医人たち | 仲田 永造 |
| 一、赤沢乾一と芸備医学会 | 江川 義雄 |
| 一、高梁出身の医師 原玄一郎 | 原 一郎 |
| 一、石阪秋朗賛 佐藤正持画 ヒポクラテス像について | 杉立 義一 |
| 一、新見の庄について | 上仲 林造 |
| 公開講演(二十四日) | |
| 一、岡山のオランダ人 日蘭修交四〇〇年 | 石田 純郎 |
| 一、岡山の外科医 | 小田 皓一 |
| 一、新見出身の生理学者 加藤元一 | 中山 沃 |
| 一、新見湯川寺の僧 玄寶の伝説 | 原田 信之 |

日本の医学は明治初年以降、第二次世界大戦終了までドイツ医学の影響を受けていた。横浜では事情が異なり、むしろ米英型の医学が大勢を占めていた。その理由は開港とともにアメリカ、イギリス系の外人医師が多数横浜を訪れたことによる。その中でもアメリカ人宣教師兼医師であったヘボンとシモンズの影響が目立っている。二人とも安政六年(二八五九)来日、医師として明治初期に活躍、ヘボンは医師としての本業以外に、『和英語林集成』の出版、ヘボン式ローマ字の考案、指路教会の設立、明治学院の創立、新約聖書、旧約聖書の翻訳など幅広い分野で活動している。

一方、シモンズは明治五年、現代の伝染病予防法に相当する防恙法の建議書を神奈川県令に提出した。明治七年二月野毛山上に十全医院(横浜市大病院の前身)が建設されたのを機会にその全権を任せられ、診療、教育、研究に専念した。同年天然痘流行時に種痘を積極的に実施し、十全医院を種痘本局とした。明治八年以降、十全医院で系統解剖及び局所解剖数回実施、開業医に説明した。また二部の医学雑誌、『梅毒小箒』と『診筈雑記』を発刊した。医学教育の点ではシモンズの方

がヘボンより实际的であつた。

昨平成十一年十一月五日、市大浦舟病院(正式には横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター)に『シモンズ博士記念碑』が設立された。記念碑は新病院の落成記念日に市大医学部同窓会より贈られたもので、高さ二・七八米、巾一・四八米の白御影石仕様である。アーチ型の上部に博士の肖像がはめ込まれ、下部に荒井、井出両氏の説明文が刻まれている。なお『シモンズ博士記念碑』設立記念講演会が平成十二年五月横浜で酒井シヅ、荒井保男両先生によって行われた。

横浜市大病院は南区浦舟町のほか金沢区福浦にもあり、後者は正式には横浜市立大学医学部情報センターと呼ばれるが、此処には十三年前の昭和六二年(一九八七)四月、医学部福浦移転開校時にヘボン博士記念碑が設立された。博士像のほか、杉立義一氏所蔵の揚州周延画の『ヘボン手術図』の錦絵が信楽焼の落着いたタイル貼りで飾られている。シモンズ碑だけでなく、ヘボン碑も是非鑑賞されることを希望する。

中野操文庫について

長門谷洋治

中野操先生(一八九七〜一九八六)はわが国医史学のリーダーとして大きな功績を遺された。軍医として数年間、中国な

どに滞在されたほかは大阪市で開業医としての忙しい日々を送られる一方で、医史学の普及発展に尽力された。『皇国医事大年表』『大阪蘭学史話』『大阪医学風土記』などの名著を刊行される傍ら、のちに日本医史学会関西支部となつた杏林温故会を同志とともに立ちあげられるなど、関西をわが国医史学の一大拠点とされた。多方面にわたつて史資料を積極的に集められ、それらを整然と分類・保管された。そして折に触れてそれを公開展示され、同学者、後学者には惜しみなく史資料を閲覧・貸与された。とくに今まであまり注目されていなかった医師番付や医療に関する錦絵を系統的に集められ、それらを印刷に付し新たな分野を拓かれた。

幸いなことにこれらの貴重な蔵書・史資料は戦災などに遇うこともなく、良い状態で保管されてきた。先生が長逝されたあと、各方面からこの中野コレクションが、散逸することなく一カ所に集められ、かつ公開されるように望む声が強くなった。幸い遺族のご理解とご英断でそのことが実現された。大阪市立中央図書館内にある大阪市史編纂所(西区北堀江四丁目、電話〇六一六五三九一三三三三)に「中野操文庫」として一括保管されるに至り、平成十年にはその目録もでき、同年十月には希望者には閲覧も可能となつた。先生自身のや、関係者から贈呈された論文抜刷や諸講演の記録、スクラップなど、だぶつた部数のあるものもそのまま悉皆的に収集されており、六千八百十件、一万三千四百六十点に及ぶ。小生が長年にわたつて探していた一書もこの文庫にあることを発見し、